

(7) 近畿



近畿地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)。

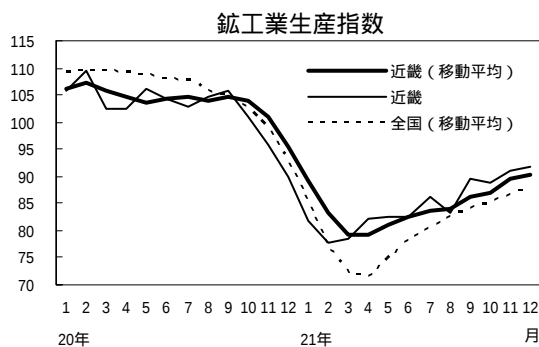
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 21 年 11 月)	今回 (平成 22 年 2 月)	
景況判断	下げ止まっている	持ち直しの動き	↑
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直している	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。

一般機械は、海外での需要増を背景に、土木建設機械や半導体・フラットパネルディスプレイ製造装置を中心に増加している。化学は、一部事業所での定期修理があったこともあり、有機薬品や油脂製品・界面活性剤を中心に減少している。食料品・たばこは、肉製品や酒類等を中心におおむね横ばいとなっている。電気機械は、セパレート型エアコンやリチウムイオン蓄電池、太陽電池モジュールを中心に増加している。鉄鋼は、自動車や家電向けを中心に大幅に増加している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7～9 月期	10～12 月期	10～12 月期	10～12 月期
一般機械	17.0	▲ 1.4	8.1	10.9	▲ 4.7
化学	14.5	2.9	▲ 1.0	▲ 2.2	4.1
食料品・たばこ	9.1	▲ 1.3	0.9	0.2	▲ 11.6
電気機械	8.5	7.1	3.6	7.0	▲ 8.5
鉄鋼	7.5	21.7	11.8	14.4	0.0
鉱工業	100.0	4.5	4.9	5.6	▲ 0.3

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

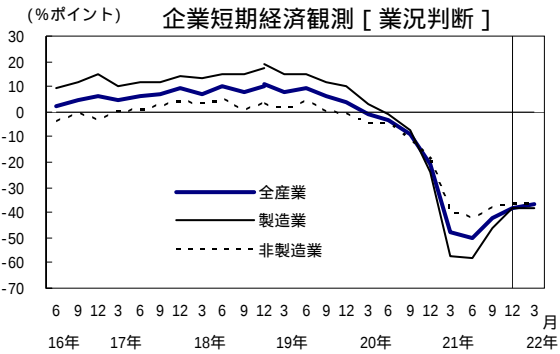
2. 10～12月期は速報値。

(備考) 1. 17年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。

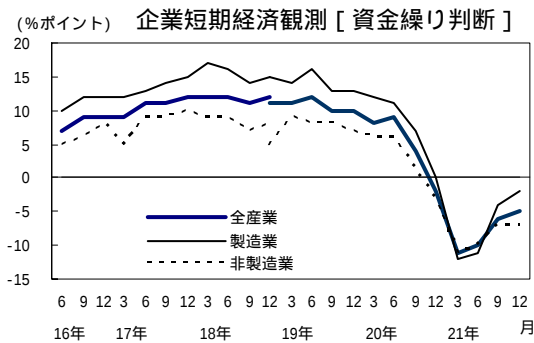
2. 全国及び近畿の太線は後方3か月移動平均。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

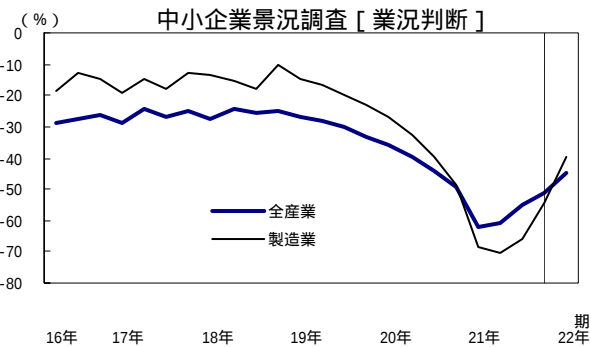
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年3月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月)[企業動向関連(現状)]

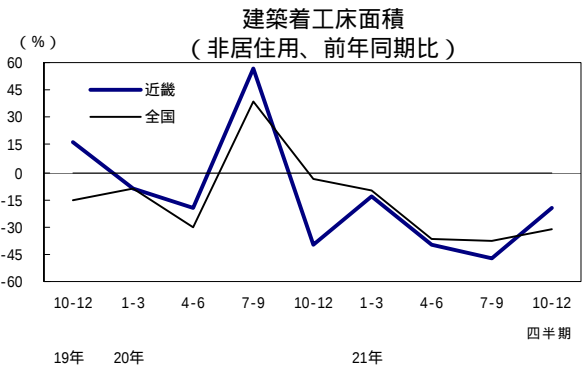
「エコポイント制度や新型インフルエンザなどの影響で、薄型テレビや空気清浄機の荷動きは引き続き堅調である。一方、そういった影響のないパソコンのような情報関連商品は、価格下落や荷動きの鈍化など、厳しい状況が続いている(電気機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	▲ 1.6	▲14.3(▲ 1.9)
製造業	▲ 6.5	▲26.7(▲ 1.1)
非製造業	3.5	▲ 2.4(▲ 2.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



(7) 近畿

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

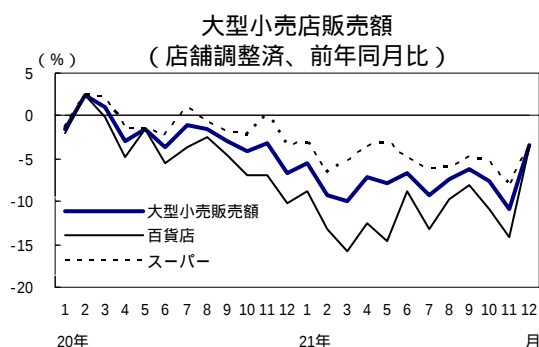
百貨店は、10月は、気温が高めで推移したため秋冬物の衣料品が低調だったほか、ハンドバッグなどの身の回り品などが振るわなかった。11月は、一部店舗では開店効果で売上が増加したものの、国際会計基準への対応を図るため、歳暮やおせちの事前販売分の売上を12月に計上する店舗がみられたことなどから、前年比の減少幅が拡大した。12月は、中旬以降の冷え込みと、クリアランスセールの前倒しなどにより衣料品の動きが活発だったことなどから前年比の減少幅が縮小した。近畿百貨店協会によると、1月の近畿地区の売上高は、前年同月比で6.8%減となっている。

スーパーは、12月はスーツや肌着等に動きがみられたものの、節約志向やボーナス減により、衣料品、食料品が低調だったことから、前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月)[家計動向関連(現状)]

「エコポイント制度の効果もあって薄型テレビの販売台数は好調であるが、単価の下落が激しい。エコポイント制度の対象以外の商品は、単価、販売量共に悪化気味であるなど、客の財布のひもは固い(家電量販店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(前年同月比、%)

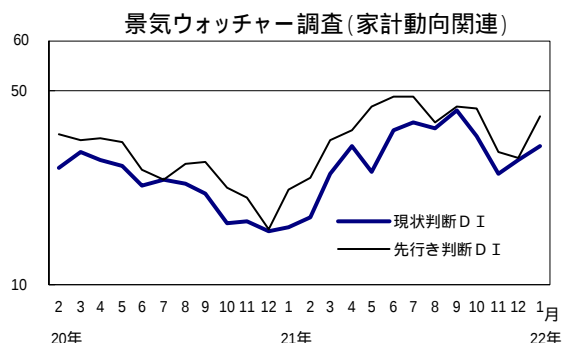
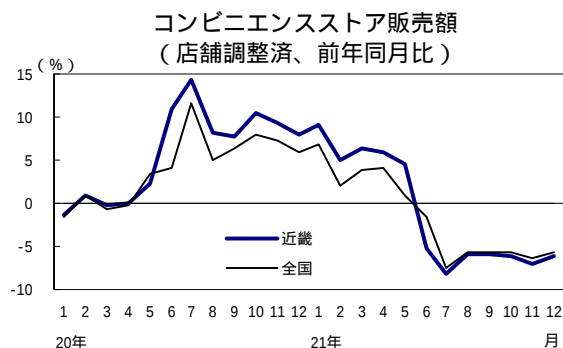


	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	▲ 8.2	▲ 7.2	▲ 7.7	▲ 7.1
百貨店	▲ 12.6	▲ 12.0	▲ 10.7	▲ 9.0
スーパー	▲ 4.9	▲ 3.8	▲ 5.7	▲ 5.6
乗用車	▲ 23.4	▲ 16.5	1.5	20.7
景気ウォッチャー	26.1	37.8	43.8	36.2

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

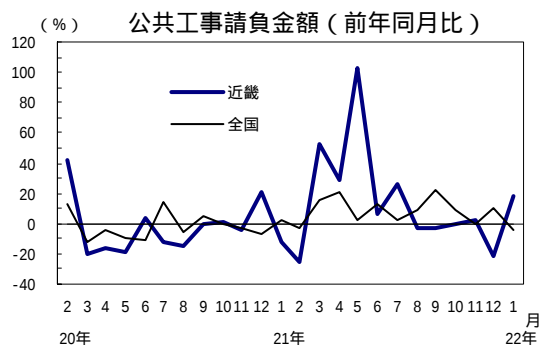
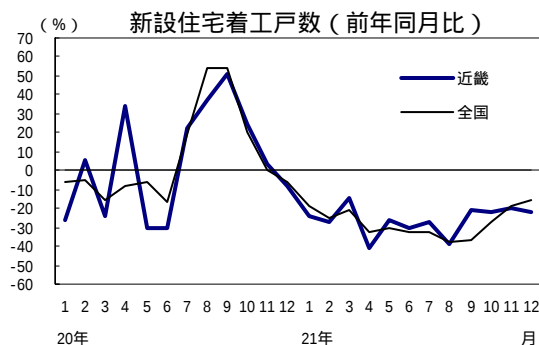
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

貸家、分譲が前年を下回り、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計でみると前年度を上回っている。

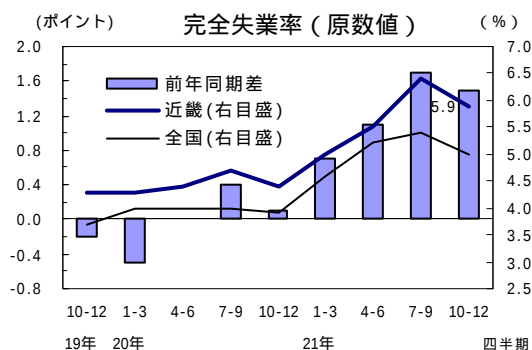
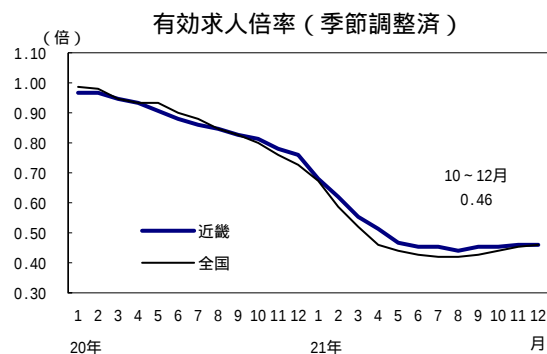


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査（1月）[雇用関連（現状）]

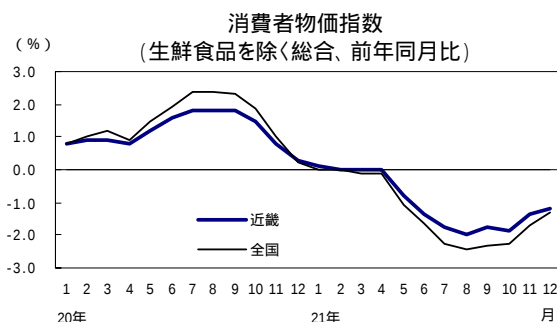
「求人数が再び増加したものの、警備員やタクシー運転手の大量求人が全体を押し上げただけで、そのほかの職種は増えてない。職種が偏っているせいか、将来性も考えて求職している若年層の就職件数は減少している（職業安定所）」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	22年1月
倒産件数 (前年比)	1,081 6.6	1,104 18.7	1,060 8.8	941 ▲6.6	282 ▲19.0
負債総額 (前年比)	3,968 59.4	2,356 ▲21.6	1,647 ▲33.1	4,418 37.4	674 ▲45.0



○ 景気ウォッチャー調査 [合計（特徴的な判断理由）]

<現状>（1月）

・マンションの販売状況は低迷しているが、土地価格の下落で戸建住宅は売れ出しており、開発業者による更地の購入価格も上昇している（住宅販売会社）

<先行き>（1月）

・しばらくは所得が大幅には改善しないため、低単価商品へ需要がシフトする動きは変わらない。ただし、買上額に応じて商品券をプレゼントする還元セールや、輸入品の福袋といった新しい取組のほか、値ごろ感のある高額商品は動きが出始めている。前年の落ち込みから1年が経過したこともあり、今後は若干改善する（スーパー）

